

# DENSO WAVE

## Q-プラットフォームプロバイダ

Version 1.0.1

### ユーザーズ ガイド

July 17, 2018

備考:

**【改版履歴】**

バージョン	日付	内容
1.0.0	2017-12-29	初版.
1.0.1	2018-7-17	誤植修正. メモリリーク対応.

**【対応バージョン】**

バージョン	日付	内容
1.0.0	2017-12-29	WebAPI 1.6 対応

## 目次

1. はじめに.....	4
2. プロバイダの概要 .....	5
2.1. インストール .....	5
2.2. 概要.....	5
3. メソッド・プロパティ.....	6
3.1.1. CaoWorkspace::AddController メソッド.....	6
3.1.2. CaoController::AddFile メソッド.....	6
4. コマンドリファレンス .....	8
4.1. Controller クラス .....	8
4.1.1. CaoController::Execute("SetRequestHeader") コマンド .....	8
4.1.2. CaoController::Execute("SetTimeout") コマンド .....	9
4.1.3. CaoController::AddVariable()コマンド .....	9
4.2. File クラス .....	10
4.2.1. CaoFile:Execute("FQRCreate")コマンド .....	10
4.2.2. CaoFile:Execute("FQRDecode")コマンド.....	10
4.2.3. CaoFile::AddVariable()コマンド .....	11
5. 変数一覧 .....	12
5.1. Controller クラス.....	12
5.2. File クラス.....	12
6. サンプルプログラム .....	25

## 1. はじめに

Qプラットフォーム プロバイダは、デンソー製 Qプラットフォームへ HTTP 通信し、フレーム QR の生成と解読を行うプロバイダです。

Q-プラットフォーム WebAPI の使用には別途契約が必要です。詳細は DENSO WAVE の HP からお問い合わせください(<https://www.denso-wave.com>)。

本ドキュメントでは、Qプラットフォームプロバイダの概要と、実装されている CAO インタフェース(関数仕様)について説明しています。

## 2. プロバイダの概要

### 2.1. インストール

Q-プラットフォームプロバイダモジュールは、下記の DLL で構成されています。ORiN2 SDK のインストーラでインストールした場合は、インストール作業は不要です。手動でインストールする場合は、表 2-1 のように実行してください。

表 2-1 Q-プラットフォームプロバイダ

ファイル名	CaoProvQ-PlatForm.dll
ProgID	CaoProv.DENSO. Q-PlatForm
レジストリ登録	regsvr32 CaoProvQ-PlatForm.dll
レジストリ登録の抹消	regsvr32 /u CaoProvQ-PlatForm.dll

### 2.2. 概要

Q-プラットフォームプロバイダは、デンソーウェーブ製 Q プラットフォームとの HTTP 通信を行い、フレーム QR の生成と解読を行います。

## 3. メソッド・プロパティ

### 3.1.1. CaoWorkspace::AddController メソッド

**書式** AddController ( <bstrCtrlName:BSTR>, <bstrProvName:BSTR>, <bstrPcName:BSTR>, [<bstrOption:BSTR>] )

<bstrCtrlName> : [in] コントローラ名  
 <bstrProvName> : [in] プロバイダ名. 固定値 ="CaoProv.DENSO.Q-PlatForm"  
 <bstrPcName> : [in] プロバイダの実行マシン名(未使用)  
 <bstrOption> : [in] オプション文字列

以下のオプションをコンマ区切りで指定できます.

Server	:	接続先を指定します.(必須) Server:に続けて接続する Q プラットフォームの URL を指定してください. 例) Server= https://q-platform.com
UserId	:	HTTP 通信(POST)時の認証用ユーザーID を指定します.(必須) 例)UserId=testUser
Password	:	HTTP 通信(POST)時の認証用パスワードを指定します.(必須) 例>Password =testPassword

### 3.1.2. CaoController::AddFile メソッド

**書式** AddFile ( <bstrName:BSTR>, <bstrOption:BSTR> )

bstrName には,使用したいモードによって変数名を指定してください.

フレーム QR を生成したい場合(以下,MAKE モード):FQR\_MAKE\_[任意の文字列]

フレーム QR をデコードしたい場合(以下,DECODE モード):FQR\_DECODE\_[任意の文字列]

bstrOption には,Q プラットフォームサーバの POST 時のアプリ ID やサービス ID やファイルフォーマットを設定することができます.

<bstrName> : [in] ファイル名  
 接頭語は下記  
 MAKE モード時:FQR\_MAKE\_  
 DECODE モード時:FQR\_DECODE\_  
 <bstrOption> : [in] オプション文字列  
 以下のオプションをコンマ区切りで指定できます.

---

AppId	:	アプリケーション ID を指定します.(必須)
SrvId	:	サービス ID を指定します.(必須)
Opformat	:	ファイルフォーマットを指定します.(MAKE モード時のみ必須)

**使用例**

---

```
GaoFile retFile = m_caoController.AddFile("FQR_DECODE_TEST", "AppId=appId, SrvId=srvId")
```

---

## 4. コマンドリファレンス

### 4.1. Controller クラス

表 4-1 CaoController::Execute コマンド一覧

コマンド	機能
SetRequestHeader	POST 時の必須項目以外のヘッダ項目の設定を行います。
SetTimeout	POST 時のセッションのタイムアウトの設定を行います。

#### 4.1.1. CaoController::Execute("SetRequestHeader") コマンド

POST 時にヘッダ項目を追加します。

引数は,"{リクエストのヘッダのキー},{リクエストヘッダの値}"の様に,配列の形式で指定する必要があります。

※配列の第二要素以降は,カンマ区切りでリクエストヘッダの値を連結して一つのリクエストヘッダの値とします。

また,同一のリクエストキーを指定した場合,以前の値を上書きするので注意して下さい。

なお,Content-Type および Content-Length,および Authorization については,プロバイダが自動で設定するため設定の必要はありません。

設定例: test-Key,testValue1,testValue2



SetRequestHeader (<Data>)

<Data > : [in] 追加するリクエストヘッダのキーおよびその値  
(VT\_BSTR | VT\_ARRAY)



```
Dim headerArray() As String = {"testHeaderKey", "HeaderValue"}
m_caoController.Execute("SetRequestHeader", headerArray)
```

#### 4.1.2. CaoController::Execute("SetTimeout") コマンド

Q プラットフォームサーバへリクエストを送信する際のタイムアウト時間を追加します。単位はミリ秒です。0 より大きな値を指定してください。省略した場合は 5000(5 秒)が設定されます。

**書式**      SetRequestHeader (<Data>)

<Data >               : [in] Http 要求のタイムアウト時間(ミリ秒)  
                          (VT\_I4)

**使用例**

---

```
result = m_caoFile.Execute("SetTimeout", 1000)
```

---

#### 4.1.3. CaoController::AddVariable()コマンド

各種変数を追加します。

**書式**      AddVariable(<変数名>[, <オプション文字列>])

<変数名>               : [in] 追加する変数名。  
                          変数名には、[変数一覧 5.1.Controller クラス](#)に定義されている変数が使用可能。

<オプション文字列 > : [in] null

>

戻り値                 : [out] 追加した変数。

**使用例**

---

```
CaoVariable retVal = m_caoController.AddVariable("@SERVER", null)
```

---

## 4.2. File クラス

表 4-2 CaoController::Execute コマンド一覧

コマンド	機能
FQRCreate	フレーム QR コードの生成を行います.
FQRDecode	フレーム QR コードの解読を行います.

### 4.2.1. CaoFile:Execute("FQRCreate")コマンド

任意の文字列をフレーム QR コードに変換します.

AddFile 時のオプション引数と CaoFile のシステム変数と Execute 時のオプション引数を用いて Json 文字列を作成し,Q プラットフォームサーバーへ POST します.  
戻り値には,作成されたフレーム QR コードの byte 配列を返却します.



FQRCreate (<Data>)

<Data > : [in] 送信する文字列  
(VT\_BSTR)



```
Dim result As Byte() = m_caoFile.Execute("FQRCreate","test")
```

### 4.2.2. CaoFile:Execute("FQRDecode")コマンド

フレーム QR コードのデータを文字列配列へと変換します.

AddFile 時のオプション引数と CaoFile のシステム変数と Execute 時のオプション引数を用いて Json 文字列を作成し,Q プラットフォームサーバーへ POST します.

戻り値には,解析結果の文字列配列(公開デコードデータ,非公開デコードデータ,サービスアプリケーションの順)を返却します.



FQRDecode(<Data>)

<Data > : [in] オプション文字列配列 (BSTR| ARRAY)

以下のオプションを文字列配列で指定できます.

CodeType : コード種を設定します.(必須)

下記のいずれかを設定する.

**Q0** : QR コード

**Q1** : QR(GS1)

	Q3	: SQRC
	Q4	: SQRC(GS1)
	Q5	: FreamQR
	G0	: iQR
	G1	: iQR(GS1)
Row Number	:	縦のセルの構成数(必須)
Column Number	:	横のセルの構成数(必須)
Decode Cell	:	出コードするセルの白黒情報(必須)

**使用例**


---

```
Dim paramArray As String() = {"Q5", "29", "29", " FE31..."}
Dim retArray As String() = m_caoFile.Execute("FQRDecode", paramArray)

Dim dcdPublicData As String = retArray(0)
Dim dcdPrivateData As String = retArray(1)
Dim srvApp As String = retArray(2)
```

---

**4.2.3. CaoFile::AddVariable()コマンド**

各種変数を追加します。

**書式**

AddVariable(<変数名>[, <オプション文字列>])

<変数名> : [in] 追加する変数名.

変数名には[変数一覧 5.2.File クラス](#) の一覧の項目のみ使用可能です.

<オプション文字列> : [in] null

>

戻り値 : [out] 追加した変数.

**使用例**


---

```
GaoVariable retVal = m_caoFile.AddVariable("@APPID", null)
```

---

## 5. 変数一覧

### 5.1. Controller クラス

表 4-1 CaoController クラス システム変数一覧

変数名	データ型	説明	属性	
			get	put
@SERVER	VT_BSTR	接続先を URL AddController 時のオプション引数(Server)に等しい	○	○
@USER_ID	VT_BSTR	HTTP 通信(POST)時の認証用ユーザーID AddController 時のオプション引数(UserId)に等しい	○	○
@PASSWORD	VT_BSTR	HTTP 通信(POST)時の認証用パスワード AddController 時のオプション引数>Password)に等しい	○	○

### 5.2. File クラス

表 4-2 のシステム変数に値を設定することで,Execute("FQRCreate")時に実行する WebAPI のリクエストパラメータとして設定します.

表 4-3 も同様に,Execute("FQRDecode")時に実行する WebAPI のリクエストパラメータとして設定します.

表 4-2 CaoFile クラス システム変数一覧(MAKE モード時)

変数名	データ型	対応する WebAPI プロパティ	説明	属性	
				get	put
@APPID	VT_BSTR	appid	アプリのシリアル番号 文字数：20（最大） AddFile 時のオプション引数(AppId)に等しい	○	○
@SRVID	VT_BSTR	srvid	サービスID 文字数：20（最大） AddFile時のオプション引数(SrvId)に等しい	○	○
@OPTD	VT_BSTR	optd	任意に送付するデータ 文字数：制限なし	○	○

変数名	データ型	対応する WebAPI プロパティ	説明	属性	
				get	put
@TXT_INPUT	VT_BSTR	txt_Input	入力文字列 NULL : QR生成されない Execute時のData に等しい	○	○
@DD_VER	VT_I4	dd_Ver	コードバージョンを指定します. 0 : 入力文字列に合わせ自動で最適なバージョンでコードを生成します.(デフォルト値) 1 : 生成できません.エラーとなります. 2~40 : 指定したコードバージョンでコードを生成します. ※範囲外値はエラーになります.	○	○
@DD_ECC_LVL	VT_I4	dd_EccLvl	誤り訂正レベルの数値を指定します. 0 : 誤り訂正レベルL (7%) 生成できません 1 : 誤り訂正レベルM (15%) (デフォルト値) 2 : 誤り訂正レベルQ (25%) 3 : 誤り訂正レベルH (30%) ※範囲外値はエラーになります.	○	○
@DD_CANVAS_MODE	VT_I4	dd_canvas_mode	キャンバス形状の設定モード(0:FIXモード固定)	○	○
@DD_CELL_SIZE	VT_I4	dd_CellSize	描画セルサイズのドット数 描画する1セル※の大きさをピクセル単位で指定します. ※セル : コードを構成する白黒の単位 1 ~ 100 ※範囲外値は最小値,最大値に補正されます. コードバージョン,マージン,フレームQR-KのQR部のサイズ等により	○	○

変数名	データ型	対応する WebAPI プロパティ	説明	属性	
				get	put
			最大値に満たなくても生成できない場合があります。 (デフォルト値:5)		
@DD_CELL_SHAPE	VT_I4	dd_CellShape	セル形状 0: ■ (暗セル) (デフォルト値) 1: ● (暗セル) 2: ● (暗セル) ○ (明セル) ※範囲外値は最小値,最大値に補正されます。 ※出力フォーマットがepsの場合は強制的に0になります。	○	○
@DD_MARGIN	VT_I4	dd_Margin	マージンの大きさ(QR周囲のマージン幅) 0~144 ※範囲外値は最小値,最大値に補正されます。 (デフォルト値:4)	○	○
@BGIMAGE	VT_U1   VT_ARR AY	Bgimage	背景画像 ・画像バイナリデータ:画像合成フレームQR生成 ・NULL:キャンバス部分透過フレームQR生成	○	○
@BGIMAGE_TRIM_X	VT_R8	bgimg_trim_X	画像切抜き位置(X) ※POST画像サイズに依存	○	○
@BGIMAGE_TRIM_Y	VT_R8	bgimg_trim_Y	画像切抜き位置(Y) ※POST画像サイズに依存	○	○
@BGIMAGE_TRIM_LENGTH	VT_R8	bgimg_trim_Len	画像の大きさ(X・Y長さ) ※POST画像サイズに依存	○	○
@TXT_FP_CELL_W	VT_BSTR	txt_FpCell_W	FPセル色(明セル) (デフォルト値:#FFFFFF)	○	○
@TXT_FP_CELL_B	VT_BSTR	txt_FpCell_B	FPセル色(暗セル) (デフォルト値:#000000)	○	○
@TXT_DATA_CELL_	VT_BSTR	txt_DataCell_	データセル色(明セル)	○	○

変数名	データ型	対応する WebAPI プロパティ	説明	属性	
				get	put
W		W	(デフォルト値:#FFFFFF)		
@TXT_DATA_CELL_B	VT_BSTR	txt_DataCell_ B	データセル色(暗セル) (デフォルト値:#000000)	○	○
@TXT_CNVS_CELL	VT_BSTR	txt_CnvsCell	キャンバスエッジ色 (デフォルト値:#000000)	○	○
@DD_ALPHA_FPW	VT_I4	dd_alpha_FP W	FPセル透過度(明セル) 0 : 完全透過 (透明) 255 : 不透過 (不透明) (デフォルト 値) ※範囲外値は最小値,最大値に補正 されます.	○	○
@DD_ALPHA_FPB	VT_I4	dd_alpha_FP B	FPセル透過度(暗セル) 0 : 完全透過 (透明) 255 : 不透過 (不透明) (デフォルト 値) ※範囲外値は最小値,最大値に補正 されます	○	○
@DD_ALPHA_DTW	VT_I4	dd_alpha_DT W	データセル透過度(明セル) 0 : 完全透過 (透明) 255 : 不透過 (不透明) (デフォルト 値) ※範囲外値は最小値,最大値に補正 されます.	○	○
@DD_ALPHA_DTB	VT_I4	dd_alpha_DT B	データセル透過度(暗セル) 0 : 完全透過 (透明) 255 : 不透過 (不透明) (デフォルト 値) ※範囲外値は最小値,最大値に補正 されます	○	○
@DD_ALPHA_CVS	VT_I4	dd_alpha_CV S	キャンバスエッジ透過度 0 : 完全透過 (透明) 255 : 不透過 (不透明) (デフォルト 値)	○	○

変数名	データ型	対応する WebAPI プロパティ	説明	属性	
				get	put
			※範囲外値は最小値,最大値に補正 されます		
@DD_SHAPE_NO	VT_I4	dd_ShapeNo	キャンバス形状番号 0 : Rectangle (デフォルト値) 1 : Triangle 2 : Circle 3 : Pentagon 4 : Hexagon 5 : Octagon 6 : FiveStar 7 : SixStar 8 : Heart 9 : Diamond 10: Trapezoid 11: Cross 12: Homebase 13: Donut 14: Rtriangle 15: Arrow ※範囲外の場合は0に固定されます.	○	○
@DD_HEADER_AREA	VT_I4	dd_HeaderArea	コード配置パターン キャンバスエリアで設定できる配置パターンを指定. 0 : BOTHSIDE (コード上辺と左辺以外にキャンバスを配置) (デフォルト値) 1 : ONESIDE (コード上辺以外にキャンバスを配置) ※BOTHESIDEの方が,より大きな汚れに強いため,通常はこちらを推奨します.コードの左辺・右辺を突き抜けるように広いイラストを配置したいような場合は,ONESIDEを指定します.	○	○

変数名	データ型	対応する WebAPI プロパティ	説明	属性	
				get	put
			※範囲外値はエラーになります。		
@DD_CENTER_X	VT_I4	dd_CenterX	キャンバス中心位置(X) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ -127～127: 指定したX位置にキャンバス配置</li> <li>・ -10000: デフォルト (中心) 位置にキャンバス配置</li> </ul> ※Verによって最大値が異なります。最大値を超える指定は,最大値に補正されます。 ※CenterYが省略時および-10000のときは無視されます	○	○
@DD_CENTER_Y	VT_I4	dd_CenterY	キャンバス中心位置(Y) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ -127～127: 指定したY位置にキャンバス配置</li> <li>・ -10000: デフォルト (中心) 位置にキャンバス配置</li> </ul> ※Verによって最大値が異なります。最大値を超える指定は,最大値に補正されます。 ※CenterXが省略時および-10000のときは無視されます	○	○
@DD_SIZE_X	VT_I4	dd_SizeX	キャンバス半径(X方向) <ul style="list-style-type: none"> <li>0 ~ 127: 指定した大きさにキャンバス配置</li> <li>-1: デフォルトの大きさにキャンバス配置</li> </ul> ※Verによって最大値が異なります。最大値を超える指定は,最大値に補正されます。 ※dd_SizeYが省略時および-1のときは無視されます (デフォルト値が使用されます)	○	○
@DD_SIZE_Y	VT_I4	dd_SizeY	キャンバス半径(Y方向)	○	○

変数名	データ型	対応する WebAPI プロパティ	説明	属性	
				get	put
			0 ~ 127: 指定した大きさをキャンバス配置 -1: デフォルトの大きさをキャンバス配置 ※Verによって最大値が異なります. 最大値を超える指定は,最大値に補正されます. ※dd_SizeXが省略時および-1のときは無視されます(デフォルト値が使用されます)		
@DD_ANGLE	VT_I4	dd_Angle	キャンバス回転指定 0 ~ 127 -1: デフォルトの角度(0度)大きさをキャンバス配置 ※Verによって最大値が異なります. 最大値を超える指定は,最大値に補正されます. ※Verによって,単位が異なります.	○	○
@OPFORMAT	VT_BSTR	Opformat	出力フォーマット(拡張子) ・jpg ・bmp ・tiff ・gif ・png ・eps 返却値のMIMEタイプ指定に使用されるため, 指定なし/上記以外の指定はエラーとして処理される AddFile時のオプション引数(Opformat)に等しい	○	○
@CODE_ROTATE	VT_I4	codeRotate	FQRの回転を指定します.(90度毎,	○	○

変数名	データ型	対応する WebAPI プロパティ	説明	属性	
				get	put
			時計まわり) 0 : 0度 (デフォルト値) 1 : 90度 2 : 180度 3 : 270度 ※範囲外の場合は0に固定		
@DD_TRIMMING_MODE	VT_I4	dd_TrimmingMode	合成する画像のトリミングモードを指定します。 0 : 画像のトリミングを行ってから拡大縮小を実施 (デフォルト値) 1 : 拡大縮小を行ってから画像のトリミングを実施 ※範囲外の場合は0に固定	○	○
@DD_STRETCH_MODE	VT_I4	dd_StretchMode	合成する画像の拡大縮小モードを指定します。 0 : 比率を無視して拡大縮小を行う (デフォルト値) 1 : 比率を維持して拡大縮小を行う ※範囲外の場合は0に固定	○	○
@TXT_CNVS_BASE	VT_BSTR	txt_CnvsBase	キャンバス背景色 (デフォルト値:#FFFFFF)	○	○
@DD_ALPHA_CVSB	VT_I4	dd_alpha_CVSB	キャンバス背景色透過度 0 : 完全透過 (透明) (デフォルト値) 255 : 不透過 (不透明) ※範囲外値は最小値,最大値に補正されます。	○	○
@TXT_MARGIN	VT_BSTR	txt_Margin	マージン色 (デフォルト値:#000000)	○	○
@DD_ALPHA_MARGIN	VT_I4	dd_alpha_Margin	マージン色透過度 0 : 完全透過 (透明) 255 : 不透過 (不透明) (デフォルト値) ※範囲外値は最小値,最大値に補正	○	○

変数名	データ型	対応する WebAPI プロパティ	説明	属性	
				get	put
			されます。		
@KNGR_MODE	VT_I4	KngrMode	フレームQR-Kの生成を指定します。 0：無効 (デフォルト値) 1：有効 ※範囲外の場合は0に固定	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
@NUM_KNGL_SIZE	VT_I4	num_knglsize	フレームQR-K QR部セルサイズ 0.1倍単位で指定します。 10～50 (10：1.0倍, 50：5.0倍) ※範囲外値は最小値,最大値に補正 されます。 (デフォルト値:10)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
@KNGL_RT	VT_I4	kngl_rt	フレームQR-K QR部回転指定 (90度毎,時計まわり) 0：0度 1：90度 2：180度 3：270度 ※範囲外の場合は0に固定	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
@KNGL_CVS_SIZE	VT_I4	kngl_cvs_size	フレームQR-K QR部領域大きさ セル数で指定します。 1～FQRの縦セル数の半分 ※範囲外値は最小値,最大値に補正 されます。 (デフォルト値:9)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
@NUM_KNGL_MGN_I N	VT_I4	num_kngl_m gn_in	フレームQR-K QR部マージンの大き さ(内側) セル数で指定します。 0～144 ※範囲外値は最小値,最大値に補正 されます。 (デフォルト値:4)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
@NUM_KNGL_MGN_ OUT	VT_I4	num_kngl_m gn_out	フレームQR-K QR部マージンの大き さ(外側)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

変数名	データ型	対応する WebAPI プロパティ	説明	属性	
				get	put
			セル数で指定します。 0～144 ※範囲外値は最小値,最大値に補正 されます。 (デフォルト値:4)		
@TXT_QR_CELL_W	VT_BSTR	txt_QRCell_ W	フレームQR-K QR部データセル色 (明セル) ※KngrMode=1の場合のみ有効 (デフォルト値:#FFFFFF)	○	○
@TXT_QR_CELL_B	VT_BSTR	txt_QRCell_ B	フレームQR-K QR部データセル色 (暗セル) ※KngrMode=1の場合のみ有効 (デフォルト値:#000000)	○	○
@DD_ALPHA_QR_W	VT_I4	dd_alpha_QR W	フレームQR-K QR部データセル透過 度(明セル) 0 : 完全透過 (透明) 255 : 不透過 (不透明) (デフォルト 値) ※範囲外値は最小値,最大値に補正 されます。	○	○
@DD_ALPHA_QR_B	VT_I4	dd_alpha_QR B	フレームQR-K QR部データセル透過 度(暗セル) 0 : 完全透過 (透明) 255 : 不透過 (不透明) (デフォルト 値) ※範囲外値は最小値,最大値に補正 されます。	○	○
@TXT_KNGL_URL	VT_BSTR	txt_kngl_Url	フレームQR-K QR部データ QR部データの "http://A.FQRAP.COM/XX"のうち XXを指定します。 00 ~ 09 -1 : QR部データを"http://fqrdl.com/"	○	○

変数名	データ型	対応する WebAPI プロパティ	説明	属性	
				get	put
			に指定します。 ※範囲外値はエラーになります。		
@MODEL	VT_I4	model	fQR モデル 0 : モデル 1 (デフォルト値) 1 : モデル 2 ※範囲外値はデフォルト値になります。	○	○
@LAST_ERROR_CODE	VT_BSTR		Execute("FQRCreate")時のレスポンス エラーコード	○	○
@LAST_ERROR_INFO	VT_BSTR		Execute("FQRCreate")時のレスポンス エラー情報	○	○

表 4-3 CaoFile クラス システム変数一覧(DECODE モード時)

変数名	データ型	対応する WebAPI プロパティ	説明	属性	
				get	put
@APPID	VT_BSTR	appid	アプリのシリアル番号 文字数 : 20 (最大) AddFile 時のオプション引数(AppId) に等しい	○	○
@SRVID	VT_BSTR	srvid	サービスID 文字数 : 20 (最大) AddFile時のオプション引数(SrvId)に 等しい	○	○
@OPTD	VT_BSTR	optd	任意に送付するデータ 文字数 : 制限なし	○	○
@VERSION	VT_BSTR	version	デコードするデータフォーマットのバージョン ・ 文字数 : 4 (固定) ・ 文字種 : 英数字 (デフォルト値:0000)	○	○
@SYMBOL	VT_BSTR	Symbol	デコードするコード種	○	○

変数名	データ型	対応する WebAPI プロパティ	説明	属性	
				get	put
			<ul style="list-style-type: none"> <li>文字数：2（固定）</li> <li>文字種：Q0,Q1,Q3,Q4,Q5,G0,G1</li> </ul> Execute 時の オプション 引数 (CodeType) に等しい		
@ROW_NUM	VT_I4	row_num	デコードするコードの縦のセル構成数 0~422 Execute 時の オプション 引数 (Row Number) に等しい	○	○
@COLUMN_NUM	VT_I4	column_num	デコードするコードの横のセル構成数を表す 0~422 Execute 時の オプション 引数 (Column Number) に等しい	○	○
@CELL	VT_BSTR	cell	デコードするコードのセル白黒情報 <ul style="list-style-type: none"> <li>文字数：44732（最大）</li> <li>黒セルを1, 白セルを0 としてコードの左上からコード1辺のセル数分を1 バイト単位でまとめたもの. 端数は0 でパディングされている.</li> </ul> Execute 時のオプション引数 (Decode Cell) に等しい	○	○
@KEY	VT_BSTR	key	SQRC等の暗号キー <ul style="list-style-type: none"> <li>文字数：16（固定）*8</li> <li>文字種：0~9,A~Fの16種類</li> <li>省略した場合,非公開データは取得されない</li> </ul>	○	○
@CLI_ID	VT_BSTR	cli_id	端末ID <ul style="list-style-type: none"> <li>文字数：50（最大）</li> </ul>	○	○
@CLI_LAT	VT_I4	cli_lat	端末の緯度 <ul style="list-style-type: none"> <li>世界測地系 DEG形式(10進数)</li> <li>範囲：-90~90</li> </ul>	○	○
@CLI_LON	VT_I4	cli_lon	端末の経度	○	○

変数名	データ型	対応する WebAPI プロパティ	説明	属性	
				get	put
			<ul style="list-style-type: none"><li>世界測地系 DEG形式(10進数)</li><li>範囲：-180～180</li></ul>		
@CLI_LANG	VT_BSTR	cli_lang	端末の言語 <ul style="list-style-type: none"><li>文字数：50（最大）</li></ul>	○	○
@CLI_OS	VT_BSTR	cli_os	端末のOS <ul style="list-style-type: none"><li>文字数：50（最大）</li></ul>	○	○
@CLI_MODEL	VT_BSTR	cli_model	端末の機種 <ul style="list-style-type: none"><li>文字数：50（最大）</li></ul>	○	○

## 6. サンプルプログラム

Q プラットフォームプロバイダと C# を使った簡単なサンプルプログラムを紹介します。

### List 6-1

### Q-Platform\_Sample

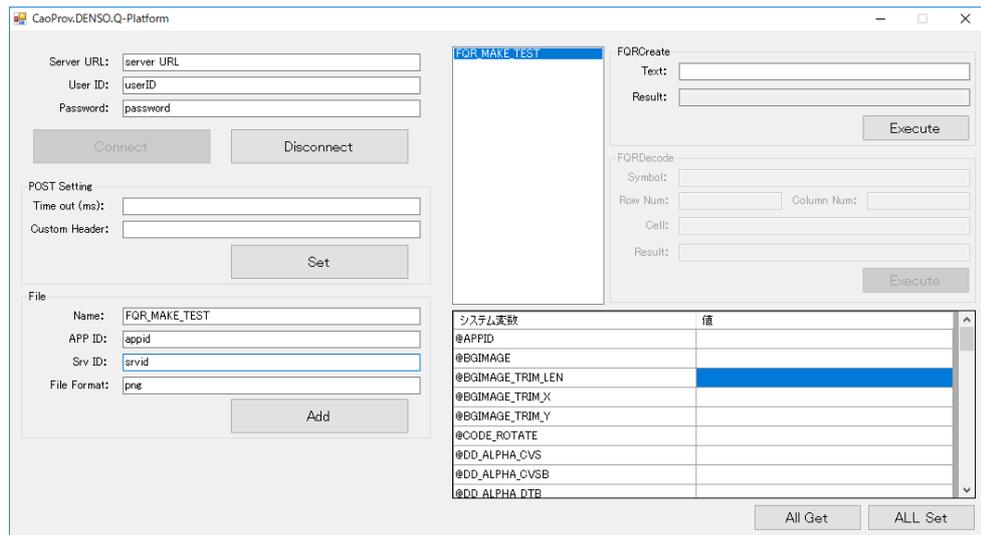


図 6-1 Q-PlatForm Client

#### サンプルプログラム

```
// Controller
CaoEngine engine = new CaoEngine();
String opionStr = "server=testServer, userId= testUserId, password= testPassword";
CaoController ctrl = engine.Workspaces.Item(0).AddController("QPlatform", "CaoProv.DENSO.Q-PlatForm", "",
opionStr);
ctrl.Execute("SetTimeout", 100);
ctrl.Execute("SetRequestHeader", new string[] {"headerKey", "headerValue"});
CaoVariable server = ctrl.AddVariable("@SERVER", "");

// File (MakeMode)
CaoFile makeFile = ctrl.AddFile("FQR_MAKE_TEST", "appId=testAppId, sruvid=testSrvId, opformat=png");
object retByteArray = (byte[])makeFile.Execute("FQRCreate", "testString");
CaoVariable appId = makeFile.AddVariable("@APPID", "");

// File (DecodeMode)
CaoFile decodeFile = ctrl.AddFile("FQR_DECODE_TEST", " appId=testAppId ,sruvid=testSrvId");
object retArray = (string[])decodeFile.Execute("FQRDecode", new string[] { "Q2", "57", "57", "
FE31B9..." });
CaoVariable sruvid = decodeFile.AddVariable("@SRVID", "");
```